

ぬまづ憲法9条の会

172号
2020年6月1日
事務局
神田健夫
921-7755

邸中枢は改正案の先送り
(継続審議)を決めざる
をえなかった。

俳優井浦新さんの「も
うこれ以上、保身のために
都合良く法律も政治もねじ
曲げないで下さい。この国
を壊さないで下さい」

世代として看過しえない。
内閣が潔くこの改正法案中、
検察幹部の定年延長を認め
る規定は撤回することを期
待し、あくまで維持するこ
うなのであれば、与党野党
の境界を越えて多くの国会
議員と法曹人、そして心あ
る国民すべてがこの検察庁
法改正案に断固反対の声を
上げてこれを阻止する行動
に出ることを期待してやま
ない。

検察庁法案 先送り 数百万を超えるネットのうねりと 立憲野党の徹底抗戦が共振して

元検事総長などの意見書より

(1970年代前半のロッ
キード事件の)特捜部が造
船疑獄事件の時のように指
揮権発動におびえることな
くのびのびと事件解明に全
力を傾注できたのは、特捜
上層部の不退転の決意、そ
れに国民の熱い支持と、捜
査への政治的介入に抑制的
な政治家たち存在であった。

集会、スタンディング

戦争させない憲法壊すな
沼津の会は、6月11日に
今後の鼓動について話し合
います。

再開時にはチラシ等でお
知らせします

2020年意見広告賛同ありが
とございました。

意見広告の「抜き刷り」は皆さん
に届いておりますか。是非、感想や
ご意見をお寄せ下さい。今後の取り
組みの参考にさせていただきます。

事務局

定年延長の閣議決定、さら
に政府の思惑で検察幹部の
定年を延長できる法案の間
題点を明らかにしてきた。

5月15日、自民党は強
気で強行採決も視野に入れ、
同日、桜井よし子氏(極右・
日本会議派)のインターネッ
ト番組に出演した安倍首相
は、強行しても批判はじき
に収まるとふんでいた。

16、17日の朝日新聞
世論調査では、改正案に賛
成は15%、反対は64%、
改正案の成立を「急ぐべき
でない」が80%に上った。
内閣支持率も前月の41%
から33%に急落した。

2月初旬以降、立憲野党
は共同して、黒川検事長の

検察庁法改正案に抗議します

ネットで起こった大きな
うねりが、テレビ・新聞に
広がり、日弁連が、元検察
総長など検事OBが、声を
上げ、国会での成立を拒
んだ。画期的な成果であり、
日本の民主主義の底力を示
したといえよう。

このツイートを投稿した
女性は、昨年来の「フラワー
デモ」に参加していたとい
う。

フラワーデモは、昨年性暴力に関する無
罪判決が相次いだことを受け、作家の
北原みのりさんが発起人となり、20
19年4月に東京駅に花を持ち集まっ
たのが始まりで、全国で取り組まれた。

「阻止する行動を期待し
てやまない」と力強く呼び
かける。

黒川検事長の定年延長閣
議決定、今回の検察庁法改
正案提出と続く一連の動き
は、検察の組織を弱体化し
て時の政権の意のままに動
く組織に改編させようとす
る動きであり、ロッキード

「言い訳をたふす天才」

桜井よし子氏のインタネット番組で安倍首相は黒川検事長の定年延長は「法務・検察から言い出した」と。黒川検事長のマージャン賭博を懲戒処分せず『訓告』としたのも法務・検察だ」と言い張る。だが、黒川氏の任免権は内閣にあり、懲戒するかしないかは内閣の判断すること。

定年延長の閣議決定もマージャン賭博の処分も、安倍首相は平気で嘘をついている。

「こいつはね、言い訳をさせたら天才的なんだよ」と父・晋太郎氏が息子・晋三氏を評していた。元毎日新聞記者・ニュースキャスターの岸井成格氏の話である。「『言い訳の天才』に、国の政治が壊されていく」。青木理著「国家のスキヤンダル」より。

沖縄県議選 始まる

オール沖縄の人々の勝利を祈る。

吉村府知事のテレビ映り

吉村大阪府知事（日本維新の会副代表）は、コロナ禍の中で、テレビにつきつぎに出演し、甘いマスク（顔）も相まって、今や次期総理と評する向きさえある。

だが、吉村府知事は、黒川検事長の定年延長の閣議決定、検察庁法改正案に賛成している。インターネット上に示された世論の大勢とは真逆の立場だ。

日本維新の会は改憲推進の立場であり、先の憲法審査会でも、メンバーは緊急事態条項の創設（内閣に立法権を与え、人々の権利を制限する）を主張している。

小池都知事 STAY HOME

小池百合子都知事も、毎日テレビで記者会見し、STAY HOME, 東京ALERT, WITH YOU

ロナなどもつぱら短文の英語表記で「やってる感」を振りまいている。

だが、根っからの改憲論者、軍備増強論者でもある。

安倍首相のコロナ対応が酷いため、小池都知事、吉村府知事が相対的に評価されるのだろう。

日本のマスクミ、特にテレビは、ある方向に東になって流れ出すので、一つ一つ丁寧に調べて吟味していかないと大変なことになる。

略奪が始まる時、銃撃が始まる

アメリカで警官が足の膝で黒人の首を締め続け殺してしまった。動画がツイッターされ抗議行動が広がり、一部が暴徒化した。これに対しトランプ大統領が「略奪が始まる時、銃撃が始まる」とツイート。

この言葉は、1967年にマイアミのある警官が黒人への対処方法について述べたものという。黒人が略奪すれば、容赦なく撃つと

いう冷徹な脅しである。（東京新聞）それを大統領が発した。ああ何ということ。

東京でも、警官がクルド人に暴行を加えた。撮影された動画が拡散され、5月30日には渋谷警察署に300人が抗議行動を行った。クルド人は警官を告訴した。

出入国管理センターでも外国人虐待が続けられている。

「コロナ、コロナ後考え合おう」

安倍首相は昨年9月、改憲のため改憲推進本部長に前本部長の細田氏を据え、憲法審査会筆頭幹事に”改憲プロ“の新藤義孝氏を配置し、二階幹事長にも改憲の旗振りを求めるなど万全の態勢を整えた。

だが、憲法審査会の開催は、9か月後の5月28日が初めてだ。「桜を見る会」、コロナ禍が続いたからだろう。当日、自由な意見交換

をしたと報じられている。

最近、政治の記事に「ポスト安部」がしきりに使われる。「官邸中枢の溝」「政策の揺れ」も報じられることが多い。「一強のほころび」「政権の末期症状」とも報じられる。

今や、改憲は「安倍首相」を続けるための護摩札か？でも、油断してはならない。

コロナの感染者数も死者数も少ない日本、にもかかわらず唯一内閣支持率が下落している日本。

検察庁法改正に抗議しますの数百万に及ぶ「ツイッター・デモ」。コロナ禍の下、日々の体験と生活、コロナ後の日本、生活の行方。考え、深め合いたい。

